

哀歌

Lamentations

旧約聖書

第1章

- 1 ああ、ひとり寂しく座っている。人で満ちていた都が。彼女はやもめのようになった。国々の間で力に満ちていた者、もろもろの州の女王が、苦役に服することになった。
- 2 彼女は泣きながら夜を過ごす。涙が頬を伝っている。彼女が愛する者たちの中には、慰める者はだれもない。その友もみな裏切り、彼女の敵となってしまった。
- 3 悩みと多くの労役の後に、ユダは捕らえ移された。彼女は諸国の中に住み、慰いを見出すことがない。追い迫る者たちはみな追いついた。彼女が苦しみのただ中にあるときに。
- 4 シオンへの道は喪に服し、例祭に行く者はだれもない。その門はみな荒れ果て、その祭司たちはうめく。おとめたちは憂いに沈む。シオンが苦しんでいるのだ。
- 5 彼女に逆らう者がかしらとなり、彼女の敵が栄えている。彼女の多くの背きのゆえに、主が憂いを与えられたのだ。幼子たちも、捕らわれの身となり、逆らう者の前に行ってしまった。
- 6 娘シオンから、そのすべての輝きが去った。彼女の首長たちは、青草を見出せない鹿のようになり、追い迫る者の前をただ力無く歩んで行った。
- 7 エルサレムは思い出す。苦しみとさすらいの日々にあって、昔から持っていた自分のすべての宝を。その民が敵の手に倒れ、だれも助ける者がいないとき、敵はその破滅を見て、あざ笑う。
- 8 エルサレムは罪に罪を重ねた。そのため、汚らわしいものとなった。彼女を尊んだ者たちはみな、その裸を見て、これを卑しめる。彼女もうめいて、その背を向ける。
- 9 彼女の汚れは裾に付いている。彼女は自分の末路を考えない。それで、驚くほど落ちぶれて、だれも彼女を慰めない。「主よ、私の苦しみを顧みてください。敵が勝ち誇っています。」
- 10 敵は、彼女が宝としているものすべてにその手を伸ばした。諸国の民がその聖所に入るのを彼女は見た。あなたの集いに加わってはならないと、あなたが命じた者たちが。
- 11 彼女の民はみなうめき、食べ物を探している。気力を取り戻そうとして、自分の宝を食物に換えている。「主よ、よく見てください。私は卑しい女になりました。」
- 12 あなたがたには関係がないのか。道行くすべての人よ、よく見よ。このような苦痛がほかにあるか。私が被り、主の燃える怒りの日に主が私を悩ませたような苦痛が。
- 13 主はいと高き所から私の骨の中に火を送り込まれた。私の足もとに網を張り、私が背を向けるようにされた。私を荒れすさんだ女、終日、病んでいる女とされた。
- 14 私の背きのくびきは重く、主の手で、私に結びつけられ、私の首の上に載せられた。主は私の力をくじき、私を渡された。私が立ち向かえない者の手に。
- 15 主は、私のうちの強者たちをみな追い払われた。私を標的として「例祭」を呼びかけ、私の若い男たちを滅ぼされた。主は、ぶどう踏みをするように、おとめ、娘ユダを踏みつぶされた。
- 16 これらのことで、私は泣いている。私の目、この目から涙があふれる。元気づけ、慰めてくれる者が、私から遠く離れたからだ。敵に圧倒されて、私の子らは啞然とする。
- 17 シオンが両手を差し出しても、これを慰める者はいない。主は、ヤコブの周囲の者たちが彼の敵となるように命じられた。エルサレムは彼らの間で汚らわしいものとなった。
- 18 主は正しい方である。しかし、私は主の命令に逆らった。すべての国々の民よ、聞け。私の苦痛を見よ。若い女たちも、若い男たちも、捕らわれの身となって行った。

- 19 私は、私を愛する者たちを呼んだが、彼らは私を欺いた。私の祭司も長老たちも、都の中で息絶えた。気力を取り戻そうとして、食物を探していたときに。
- 20 「主よ、ご覧ください。私は苦しみの中にあり、はらわたはかき回され、私の心は私のうちで打ちのめされています。私が逆らい続けたからです。外では剣が子を奪い、家の中は死のようです。
- 21 私のうめきを聞いても、慰めてくれる者はだれもいません。敵はみな、私のわざわいを聞いて喜びました。あなたがそうなされたからです。あなたが告げられた日を来させてください。彼らも私と同じようになるために。
- 22 彼らの悪のすべてが、御前に出されますように。そして彼らに報いてください。あなたが、私のすべての背きに対して 報いを返されたように。私のうめきは大きく、私の心は弱っています。」

第2章

- 1 ああ、主は娘シオンを 御怒りの雲でおおい、イスラエルの栄えを 天から地に投げ落とし、御怒りの日に、ご自分の足台を思い出されなかった。
- 2 ヤコブのすべての住まいを 主は呑み込み、容赦なさらなかった。憤って娘ユダの要塞を打ち壊し、地に打ち倒して、王国とその首長たちを汚された。
- 3 燃える怒りをもって、イスラエルのすべての角を折り、敵の前で 右の手を引き戻し、あたりを焼き尽くす炎のように、ヤコブを焼かれた。
- 4 主は敵のようにして、弓を引き絞り、はむかう者のようにして、右の手でしっかり構え、いとしい者たちをみな虐殺した。主は娘シオンの天幕に、火のように憤りを注がれた。
- 5 主は、敵のようになって、イスラエルを呑み込まれた。そのすべての宮殿を呑み込み、その要塞を破壊し、娘ユダにうめきと嘆きを 増し加えられた。
- 6 主は、園にするように、ご自分の幕屋を荒らし、例祭の場所を滅ぼされた。主はシオンでの例祭と安息日を忘れさせ、激しい憤りをもって、王と祭司を退けられた。
- 7 主は、その祭壇を拒み、聖所を退け、その宮殿の城壁を 敵の手に引き渡された。例祭の日のように、彼らは主の宮で声をあげた。
- 8 主は、娘シオンの城壁を 打ち壊そうと決め、測り縄でこれを測り、滅ぼすことから手を引かれなかった。壘と城壁は悲しみ嘆き、ともに崩れ落ちた。
- 9 彼女の城門は地に沈み込み、主はそのかんぬきを打ち壊して砕かれた。その王も首長たちも 異邦の民の中にあり、もはや律法はなく、預言者たちも、主からの幻を見出さなかった。
- 10 娘シオンの長老たちは、地に座して黙し、頭にちりをかぶり、身に粗布をまとった。エルサレムのおとめたちは、頭を地に付くほど垂れた。
- 11 私の目は涙でかすみ、はらわたはかき回され、肝は地に注ぎ出された。私の民の娘の破滅のために。幼子や乳飲み子が 都の広場で衰え果てている。
- 12 彼らは母親に言い続ける。穀物とぶどう酒はどこにあるのかと。町の広場で負傷した者のように 衰え果てたときに、母親の懷で 息絶えそうなときに。
- 13 娘エルサレムよ。あなたのことをどう証言し、何になぞらえよう。おとめ、娘シオンよ。あなたを何に比べて、あなたを慰めよう。実に、あなたの傷は海のように大きい。だれがあなたを癒やすことができよう。

- 14 あなたの預言者たちは、あなたについて、むなしい、ごまかしの幻を見た。あなたの咎を暴いて、あなたを元どおりにしようとはせず、あなたについて、むなしい宣告と、惑わすことばの幻を見た。
- 15 道行く人はみな、あなたに向かって手を打ち鳴らし、娘エルサレムを嘲って頭を振り、「これが、美の極み、全地の喜びと言われた都か」と言う。
- 16 あなたの敵はみな、あなたに向かって大きく口を開け、口笛を吹き、歯をむき出しにして言う。「われわれがこれを呑み込んだ。ああ、これこそ待ち望んでいた日。これに巡り会い、じかに見た」と。
- 17 主は計画したことを行い、昔から命じていた自らのことばを成し遂げられた。滅ぼして、容赦せず、あなたのことで敵を喜ばせ、逆らう者の角を高く上げられた。
- 18 彼らは主に向かって心の底から叫んだ。娘シオンの城壁よ、昼も夜も、川のように涙を流せ。自分に休みを与えるな。あなたの瞳を休ませてはならない。
- 19 夜、見張りの始まりに、立って大声で叫べ。あなたの心を主の前に、水のように注ぎ出せ。あなたの幼子たちのいのちのために、主に向かって両手を上げよ。彼らは街頭のいたるところで、飢えのために衰えきっている。
- 20 「主よ、よくご覧ください。だれにこのような仕打ちをなさったのかを。女たちが、自分の胎の実を、養い育てた幼子を食べてよいでしょうか。祭司や預言者が、主の聖所で虐殺されてよいでしょうか。
- 21 幼い者も年寄りも 道端で地に横たわり、若い女たちも若い男たちも 剣に倒れました。あなたは御怒りの日に虐殺し、屠り、容赦されませんでした。
- 22 あなたは、例祭の日のように、私の恐怖を、四方から呼び集めました。そのため主の御怒りの日には、生き残る者も逃れる者もいませんでした。私が養い育てた者たちを、私の敵は滅ぼし尽くしました。」

第3章

- 1 私は、主の激しい怒りのむちを受けて 苦しみにあった者。
- 2 主は、私を連れ去り、光のない闇を歩ませ、
- 3 御手をもって一日中、繰り返し私を攻められた。
- 4 主は、私の肉と皮をすり減らし、私の骨を砕き、
- 5 私に対して陣を敷き、苦味と苦難で私を取り巻き、
- 6 私を暗い所に住まわせられた。はるか昔に死んだ者のように。
- 7 主は私を囲いに入れて出られなくし、私の青銅の足かせを重くされた。
- 8 私が助けを求めて叫んでも、主は私の祈りを聞き入れず、
- 9 私の道を切り石で囲み、私の通り道をねじ曲げられた。
- 10 主は、私には待ち伏せる熊、隠れたところにいる獅子。
- 11 主は私を道から外れさせ、私を引き裂き、無残な姿にされた。
- 12 弓を引き絞り、私を矢の的のようにして、
- 13 矢筒の矢を、私の腎臓に射込まれた。
- 14 私は一日中、民全体の笑いもの、彼らの嘲りの歌となった。

- 15 主は私を苦菜で満腹にし、苦よもぎで酔わせ、
- 16 私の歯を砂利で砕き、灰の中で私を踏みつけられた。
- 17 私のたましいは平安から見放され、私は幸せを忘れてしまった。
- 18 私は言った。「私の誉れと、主から受けた望みは消え失せた」と。
- 19 私の苦しみとさすらいの思い出は、苦よもぎと苦味だけ。
- 20 私のたましいは、ただこれを思い出しては沈む。
- 21 私はこれを心に思い返す。それゆえ、私は言う。「私は待ち望む。
- 22 主の恵みを。」 実に、私たちは滅び失せなかった。主のあわれみが尽きないからだ。
- 23 それは朝ごとに新しい。「あなたの真実は偉大です。
- 24 主こそ、私への割り当てです」と私のたましいは言う。それゆえ、私は主を待ち望む。
- 25 主はいつくしみ深い。主に望みを置く者、主を求めるたましいに。
- 26 主の救いを 静まって待ち望むのは良い。
- 27 人が、若いときに、くびきを負うのは良い。
- 28 それを負わされたなら、ひとり静まって座っていよ。
- 29 口を土のちりにつけよ。もしかすると希望があるかもしれない。
- 30 自分を打つ者には頬を向け、十分に恥辱を受けよ。
- 31 主は、いつまでも見放してはおられない。
- 32 主は、たとえ悲しみを与えたとしても、その豊かな恵みによって、人をあわれまれる。
- 33 主が人の子らを、意味もなく、苦しめ悩ませることはない。
- 34 地上の捕らわれ人を みな足の下に踏みにじり、
- 35 人の権利を、いと高き方の前で曲げ、
- 36 訴訟で人を不当に扱うのを、主は見ておられないだろうか。
- 37 主が命じられたのでなければ、だれが語って、このようなことが起きたのか。
- 38 わざわいも幸いも、いと高き方の御口から出るのではないか。
- 39 生きている人間は、なぜ不平を言い続けるのか。自分自身の罪のゆえにか。
- 40 自分たちの道を尋ね調べて、主のみもとに立ち返ろう。
- 41 自分たちの心を、両手とともに、天におられる神に向けて上げよう。
- 42 「私たちは背き、逆らいました。あなたは赦してくださいませんでした。
- 43 あなたは、怒りを身にまとい、私たちを追い、容赦なく殺されました。
- 44 あなたは雲を身にまとい、私たちの祈りをさえぎり、
- 45 私たちを諸国の民の間で、ごみ屑とされました。」
- 46 私たちの敵はみな、私たちに向かって口を大きく開け、
- 47 恐れと落とし穴、荒廃と破滅が私たちに臨んだ。
- 48 娘である私の民の破滅のために、私の目から涙が川のように流れる。
- 49 私の目は絶えず涙を流して、やむことなく、
- 50 主が天から見下ろして、顧みられるときまで続く。
- 51 私の目は、都のすべての娘たちを見て、この心を苦しめる。
- 52 私の敵たちは、わけもなく、鳥を狙うように、私をつけ狙った。

- 53 私を穴に落として、いのちを滅ぼそうとし、私に石を投げつけた。
- 54 水は私の頭の上にあふれ、私は「断ち切られた」と言った。
- 55 「主よ、私は御名を呼びました。穴の深みから。
- 56 あなたは私の声を聞かれました。私のうめき声に、私の叫びに、耳を閉ざさないでください。
- 57 私があなたを呼び求めると、あなたは近づき、『恐れるな』と言われました。
- 58 主よ。あなたは私のたましいの訴えを取り上げ、私のいのちを贖ってくださいました。
- 59 主よ。あなたは、私が虐げられるのをご覧になりました。どうか、私の訴えを正しくさばいてください。
- 60 あなたは、私に対する彼らの復讐を、彼らの企みのすべてをご覧になりました。
- 61 主よ。あなたは、私に対する彼らのそしりを、彼らの企みのすべてを聞かれました。
- 62 私に向かい立つ者たちの唇と嘲りが、一日中、私に向けられています。
- 63 彼らの起き伏しに目を留めてください。私は彼らのからかいの歌となっています。
- 64 主よ。彼らの手のわざに応じて、彼らに報復し、
- 65 彼らの心に覆いをかけ、彼らに、あなたののろいを下してください。
- 66 御怒りをもって彼らを追い、主の天の下から根絶やしにしてください。」

第4章

- 1 ああ、金は黒ずみ、美しい黄金は色あせ、聖なる石は、道端のいたるところに投げ捨てられている。
- 2 高価であり、純金で値踏みされるシオンの子らが、ああ、土の壺、陶器師の手のわざと見なされている。
- 3 ジャッカルさえも乳房をふくませて、その子に乳を飲ませる。しかし、娘である私の民は、荒野のだちょうのように無慈悲となった。
- 4 乳飲み子の舌は渴いて上あごにへばり付き、幼子たちがパンを求めても、割いてやる者もない。
- 5 ごちそうを食べていた者たちは街頭で痩せ衰え、緋色の衣で育てられた者たちは堆肥をかき集めるようになった。
- 6 娘である私の民の咎はソドムの罪よりも大きかった。人の手によらずに、一瞬で崩壊したソドムより。
- 7 その聖別された者たちは雪よりも清く、乳よりも白かった。そのからだは珊瑚よりも赤く、容姿はサファイアのようなであった。
- 8 しかし、彼らの顔はすすより黒くなり、街頭でもそれと分からない。彼らの皮膚は干からびて骨に付き、乾いて木のようなになった。
- 9 剣で殺される人は、飢えで殺される者たちより幸せであった。その者たちは、畑の実りがないために、痩せ衰えて死んでいった。
- 10 あわれみ深い女たちが、自分の手で自分の子を煮た。娘である私の民が破滅したとき、それが彼女たちの食物となった。

- 11 主は憤りを出し尽くし、燃える怒りを注ぎ出された。主はシオンに火を放ち、火はその礎を焼き尽くした。
- 12 地の王たちは信じていなかった。世界に住むすべての者も。仇や敵がエルサレムの門に入って来るとは。
- 13 これはその預言者たちの罪、祭司たちの咎のためである。彼らは、その町のただ中で、正しい人たちの血を流した。
- 14 彼らは血で汚れ、目の見えない人のように街頭をさまよひ、だれも彼らの衣に触れることはできなかった。
- 15 「向こうへ行け。汚れた者」と人々は彼らに叫ぶ。「向こうへ行け。向こうへ行け。さわるな。」彼らは、立ち去って、なおもさまよひ歩く。国々の中で人々は言う。「彼らは二度とここに寄留してはならない」と。
- 16 主ご自身が彼らを散らされた。もう彼らに目を留められることはない。祭司たちは尊ばれず、長老たちは敬われなかった。
- 17 そのうえ、私たちの目は衰えていき、助けを求めたが、空しかった。私たちは、救いをもたらさない国に期待をかけ、見張り場で見張りをしたのだ。
- 18 私たちの歩みはつけ狙われて、広場を歩くこともできなかった。私たちの終わりは近づいた。私たちの日は満ちた。私たちの終わりが来たのだ。
- 19 私たちを追う者たちは、大空の鷲よりも速かった。山々の上まで追い迫り、荒野で私たちを待ち伏せした。
- 20 私たちの鼻の息、主に油注がれた者が、彼らの落とし穴で捕らえられた。私たちは「この方の陰なら、国々の中でも生き延びられる」と思っていた。
- 21 ウツの地に住む娘エドムよ、楽しみ喜べ。だが、あなたにも杯は巡って来る。あなたは酔って自分の裸をさらす。
- 22 娘シオンよ、あなたへの刑罰は果たされた。主はもう、あなたを捕らえ移すことはなさない。だが、娘エドムよ、主はあなたの咎を罰し、あなたの罪を暴かれる。

第5章

- 1 主よ。私たちに起こったことを心に留め、私たちの汚名に目を留めて、よく見てください。
- 2 私たちのゆずりの地は外国人の手に、私たちの家は異国の民の手に渡りました。
- 3 私たちは父のいないみなしごととなり、母はやもめのようにになりました。
- 4 私たちは自分の水を、金を払って飲みます。薪も、代価を払って手に入れます。
- 5 私たちはくびきを負って、追い立てられ、疲れ果てても憩いを与えられません。
- 6 私たちは十分な食物を得ようと、エジプトやアッシリアに手を伸ばしました。
- 7 私たちの先祖は罪を犯し、今はもういません。彼らの咎は私たちが負いました。
- 8 奴隷たちが私たちを支配し、彼らの手から解き放ってくれる者はいません。
- 9 荒野には剣があり、私たちは、いのちがけで食物を得ています。
- 10 私たちの皮膚は、飢饉の激しい熱で、かまどのように熱くなりました。
- 11 女たちはシオンで、おとめたちはユダの町々で、辱められました。
- 12 首長たちは彼らの手で木につるされ、長老たちは尊ばれませんでした。

- 13 若い男たちはひき臼をひかされ、 幼い者たちは薪を背負ってよろめきました。
- 14 長老たちは、城門のところに集まることを、 若い男たちは、楽器を鳴らすことをやめました。
- 15 私たちの心から喜びが消え、 踊りは喪に変わりました。
- 16 冠も頭から落ちました。 私たちは、ああ、罪ある者となりました。
- 17 このために、私たちの心は病みました。 これらのために、目は暗くなりました。
- 18 荒れ果てたシオンの山の上を、 そこを狐が歩き回っています。
- 19 主よ。あなたはとこしえに御座に着かれ、 あなたの王座は代々に続きます。
- 20 なぜ、いつまでも私たちをお忘れになるのですか。 私たちを長い間、捨てておかれるのですか。
- 21 主よ、あなたのみもとに帰らせてください。 そうすれば、私たちは帰ります。 昔のように、私たちの日々を新しくしてください。
- 22 あなたが本当に、私たちを退け、 極みまで私たちを怒っておられるのでなければ。